# 人口減に伴う中での将来ビジョンは

## 身の丈に合った計画で

菊地光明議員
（新生会）

**問** 現在の日本の人口は約1億2700万人となっているが、現状のままで推移すると将来人口は1億人を割り込むと言われている。将来ビジョンを描くには、まず人口がどのようになっていくかを把握しなければならない。全ての政策は人口の行く末によって左右される。そこで次のことを伺う。

町の将来人口の推移は。

**佐藤町長** 推計人口は、2015年は1万5404人であるが、2025年には1万3712人。

**問** 2025年の各地区別の人口は。

**町長** 豊間根2222人、大沢1597人、山田4859人、織笠1942人、船越3094人。

**問** 年少人口、生産年齢人口、老齢人口の状況と割合は。また、各小学校別の児童数は。

**町長** 階層別では、年少1275人で9・3%、生産年齢が6883人で50・2%、老齢が5554人で40・5%。児童数は6年後の2021年には豊間根小103人、荒川小24人、大沢小63人、山田北小55人、山田南小122人、織笠小53人、轟木小31人、船越小90人、大浦小15人と推計している。

**問** 将来人口の減に合わせて、総合計画など全ての基本計画を計画すべきであると考えるが。

**上林企画財政課長** 現在策定中の総合計画においては、今の町民はもちろん、将来の町民にも責任を負うことになるので、身の丈に合う計画を策定したい。

**問** 現在進めている復興計画の見直しも必要と考えるが。

**沼崎復興推進課長** 身の丈に合ったコンパクトな町づくりの計画となっている。

**問** 将来的な児童減を考えると、小学校の再編も視野に入れなければならないと思うが。

**佐々木教育次長** 現時点では考えていないが、将来人口の減から検討する場合には、丁寧に進めていかなければならないと考えている。

船越小学校の児童たち

# いわて国体の対応は

## 町民挙げて「おもてなし」を

**問** いわて国体の準備および来町者に対する対応は。

**町長** リハーサル大会を開催し、本大会の成功に向けて準備を進めている。来町する人たちに対しても、町全体で歓迎の気持ち、復興支援への感謝の気持ちが伝わるよう、被災地としての「おもてなし」に取り組む。

婦人会によるおもてなし風景